



デイサービスで買い物支援!



「買い物に行って、自分で選んで買いたい」

高齢者のこうした願いを叶えようと、加東市社協の東条デイサービスセンター(以下、「東条デイ」)では、今年度から買い物支援を始めた。

毎月3週目を「買い物ウィーク」にし、希望する東条デイ利用者が近所のスーパーやホームセンターに出掛けるというもので、ほぼ全員が手を挙げる人気プログラムだ。たとえ相手が家族でも、いつもお願いして買ってきてもらうのは遠慮がある。東条デイの買い物支援は、利用者の自己決定に基づく生活支援であるとともに、普段とは逆の立場で家族に頼まれたものを買ってあげるといふ、高齢者のちょっとした役割作りにもなっている。

活動の中で

東条デイは、毎月の買い物支援以外にも年に2回程度、市外の大型ショッピングモールへ買い物ツアーを実施している。利用者は、ボランティアと行きたいお店で思い思いに昼食と買い物を楽しむ。ボランティアは普段から東条デイに出入りしていて、利用者と同様なじみの人も多い。

「顔を見に来たで」と気軽に地域の人たちがデイに入って来てくれるんです。地域の人たち抜きにケアはできません」と東条デイ管理者の藤原さんは話す。



ボランティアが慣れた手つきで車いす介助

東条デイだけでなく、加東市社協の3カ所のデイサービスセンターは、「地域と共に育つデイ」を掲げ、ボランティアの参画を大切にしている。デイサービスが利用者にとって特別な空間になるのではなく、できるだけ地元の支え合う関係の中で当たり前空間になることが、加東市社協が目指すデイサービスである。



「7皿食べたこともあるんやで」みんなでワイワイ回転ずし

活動のポイント 買い物支援を通した高齢者の生きがい・生活支援&地域とのつながり支援

取材を終えて

買い物ツアーに同行して驚いたのは、利用者一人一人の希望に沿って、ボランティアがごく自然に介助を行っていたことでした。これは、利用者・ボランティア・介護職員の日頃の関係性がなければできないことです。「いつまでも自分らしく生きることの支援」はとても難しいことですが、そのカギは、「利用者・ボランティア・介護職員の垣根を超える関係」と「地域と共にあること」ではないかと思いました。

会長から

加東市社会福祉協議会 会長 吉村 進吾

加東市は、平成24年度「県の住み良さランキング」第4位にランクされました。しかし、平成18年の合併以降、人口は現状を維持しているものの高齢化率は23%と進行しています。

加東市社協は組織強化を目的に、現在、社協発展強化計画を策定しており、あわせて第2次地域福祉推進計画を平成27年度からの加東市の地域福祉計画と歩調を合わせ、策定することにしました。その中で通所介護事業は重要な位置を占めております。利用者へ寄り添った質の高い介護保険サービスをモットーに、社協の持つ地域福祉事業と連携を図りながら、地域の皆さまと共に育つデイサービスとして、安心して利用できる介護サービスを目指しています。

